

製品名: 間質相互作用分子 1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86470**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から 12 ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:77 kDa; Observed MW:85 kDa

抗原情報

遺伝子名	Stromal Interaction Molecule 1
別名	GOK; TAM; TAM1; IMD10; STRMK; D11S4896E
遺伝子 ID	6786
SwissProt ID	Q13586
免疫原	ヒト間質相互作用分子 1 の合成ペプチド

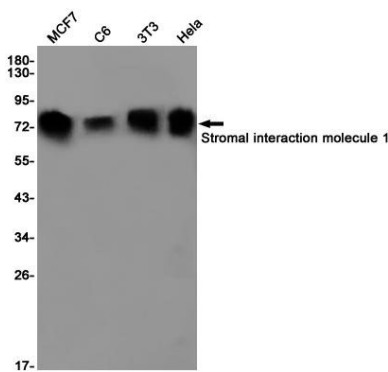
背景

この遺伝子は、細胞内 Ca²⁺ストアの枯渇後に、ストア作動性 Ca²⁺流入チャネル（SOC）のゲーティングを介して Ca²⁺流入を媒介

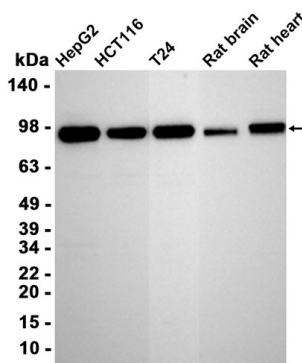
する1型膜貫通タンパク質をコードする。これは、重要な腫瘍抑制遺伝子領域である11p15.5のインプリント遺伝子ドメインに位置する複数の遺伝子の1つである。この領域の変異は、ベックウィズ・ヴィーデマン症候群、ウィルムス腫瘍、横紋筋肉腫、副腎皮質癌、肺癌、卵巣癌、乳癌と関連付けられている。この遺伝子は、間質細胞への接着を媒介することにより、この領域に関連する悪性腫瘍や疾患、ならびに早期造血において役割を果たしている可能性がある。この遺伝子の変異は、致死性の古典的カポジ肉腫、線維芽細胞におけるストア作動性カルシウム流入 (SOCE) の異常に起因する免疫不全、外胚葉性異形成症、および尿管凝集性ミオパチーと関連しています。この遺伝子はリボヌクレオチド還元酵素1遺伝子 (RRM1) と頭尾構造を形成しており、3'末端はRRM1遺伝子の5'末端から1.6kbの位置にあります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2013年5月]

研究分野

画像データ



間質性相互作用分子1抗体 (1:1000希釈) を使用した、MCF7、C6、3T3、HeLa細胞溶解物中の間質性相互作用分子1のウエスタンブロット検出。



AMRe86470を1:3000で使用して、HepG2、HCT116、T24細胞およびラット脳、ラット心臓組織からの抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。